

ばんけい

教育ほつとにゅーす

かわら版

こ みち
教育の小径

No.194

2024 December

12月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

玉石混淆

よいもの(優れたもの)と悪いもの(つまらないもの)が入り混じって、区別がつかないことです。宝石になる玉(原石)が石ころに混じっていると見分けがつかません。

授業時数の設定と確保の問題

- 年度末になって、教科の指導時間が不足したり、教科書が終わらなかつたりしないよう、いまから見直しをもって各教科の時数を調整します。
- 学校教育法施行規則に定められている年間の「授業時数」を踏まえて、各教科等や単元・題材の指導に必要な時間を設定します。

今月の 12月20日

記念日 霧笛記念日

青森県下北半島の北東端に炭産崎灯台があります。明治12年(1879年)のこの日、ここに日本で初めて霧笛が設置されました。

授業時数不足の原因は何か

年度末になると「○○科の指導時間が足りなくなった」「教科書の内容が終わらない」などの声を聞くことがあります。このような事態は、特に熱心に教えている教科で起こりがちです。時間をかけて丁寧に指導しているからでしょう。教えなければならぬことを教えないままに、進級・進学させることがないようにしたいものです。

各学校では、各教科等の指導計画を作成しています。そこでは、年間の授業時数を踏まえて時間配分されていますから、計画どおりに指導されていれば、授業時数は不足しないはずですが、ところが、教育という営みは生身の子どもを相手にしていますから、計画どおりにはいかないのが常です。

授業時数が不足する場面は、子どもたちに想定していなかったつまずきが見られたときや、子どもたちが予想していた以上に熱心に学習活動に取り組んだときです。学級全体で補習的な指導や繰り返し学習を行ったときや、学習指導要領に示されていない内容を加えて発展的な学習を組み入れた場合にも授業時数の不足が生じることがあります。また、学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」や「問題解決

的な学習の展開」「言語活動の充実」など時間を要する指導方法を求めているため、これらの活動を重視すると、授業時数が不足することがあります。

さらに、教師の思いで資料や教材を豊富に準備すると、学習活動に時間をかけすぎてしまうこともあります。教師が得意とする教科等において時間が不足する傾向があります。

日ごろから年間を見直し、授業時数を常に調整し修正しながら指導することが求められます。

時数配分は学校・教師の裁量

学習指導要領には、各教科等で指導すべき「内容」が示されています。各学校はそれらをもとに、指導時間を含めて各教科の各単元等の指導計画を作成します。各教科等の年間の授業時数は学校教育法施行規則に定められていますから、この時間を下回らないよう授業時数を確保します。

各教科等の授業時数は、学習指導要領の「内容」を標準的に指導したときに必要な時間とされています。時数の問題を考えるとき、規定されている「授業時数」と各学校が設定する「指導時間」を区別して考えます。

年間の授業時数が不足しないよう、学校として、まず各教科等の「指導時

間」を設定し、そのうえで各教科等の指導計画を作成します。

学校が指導時間を設定する際に留意すべき事項があります。平成15年に一部改正された学習指導要領に関連して、文部科学省が平成15年12月に発出した「通知」では「各教科等の年間授業時数の標準を上回る適切な指導時間を確保する」と示されました。これを受けて、各学校はこれまで各教科等の指導時間を増やすことに努力してきました。ところが、近年学校の働き方改革の観点から、また子どもに過重な学習負担をかけないようにするために標準授業時数を大きく上回って設定することに歯止めをかけています。

各教科の授業時数には限りがありますから、指導内容が削減されていない現状では、単元や題材を精選・重点化する必要があります。精選するとは内容を削除することではありません。目標やねらいを考慮して単元や題材の扱い時数に軽重をつけることです。

単元や題材の指導に充てる時間数は学習指導要領に示されていません。子どもの実態や教師の思い、これまでの経験などを踏まえて、各学校が教科ごと、単元や題材ごとに指導時間を設定します。時間の配分は、年間の「授業時数」を下回らない範囲で各学校や教師の裁量に委ねられています。

新学級の基礎知識

学級行事の開催

学級が独自に行事を企画・実施することは、学級の集団づくりにおいて重要な意味をもっています。

例えば、これまでも「お誕生日会」や班対抗のドッジボール大会、合唱コンクール、年中行事に合わせた催しなどが実施されてきました。学級行事は子どもたちがとても楽しみにしています。学習指導の場面とは違った子どもの姿を観察することができます。

学級行事をとおして、子どもたちに社会性や協力性、創造性などを養うことができます。子どものよさや得意分野を発揮させる場面にもなります。

学級行事を開催する際には、教師が開催することの意義を子どもたちに説明します。そのうえで、教師が一方的に段取りしてしまうのではなく、行事の内容や開催するまでに必要な仕事、事前に準備することや仕事の分担、会の進行などについて子どもたちに話し合わせます。ポイントは、教師が「自分たちの、自分たちによる、自分たちのための」行事になるよう助言することです。

学級行事ごとに子どもの役割を交代させ、いろんな経験をさせます。仕事を分担してみんなでひとつの行事をつくりあげていくことの苦勞と楽しさを体感させます。終わったあとには達成感や成就感を味わわせます。

可能であれば、保護者が参観・参加する場を設けることも考えられます。会が終了したら、子どもたちによる相互評価や自己評価を行います。それをもとに、楽しかったこと、次の会で改善したいことなど、自由に話し合わせます。結果は記録に残し、次の会を企画するときの参考にさせます。

教育の動向

日本語指導が必要な児童・生徒

文部科学省は、令和5年5月1日現在の日本語指導の必要な児童生徒の受入状況について調査し、結果を公表しています。調査の対象は、公立小・中学校及び高等学校等です。

日本語指導が必要な児童生徒数は69,123人で、前回調査から10,816人(18.6%)も増加しています。このうち、外国籍の児童生徒は57,718人で、前回より10,099人(21.2%)の増加。また、日本国籍の児童生徒は11,405人で、前回より717人(6.7%)増加しています。特に外国籍の児童生徒が急増していることがわかります。

日本語指導が必要な外国籍の児童生徒の母国語は、ポルトガル語が20.8%、

中国語が20.6%となっています。日本国籍の児童生徒は、日本語が30.5%、次にフィリピン語が19.4%になっています。また、日本語指導が必要な外国籍の児童生徒のうち、特別な指導を受けている人数は52,176人(90.4%)です。

今後も、わが国の国際化の進展や労働力の移入などにより、学校に在籍する日本語指導の必要な児童生徒は増えていくことが考えられます。こうした児童生徒への指導を充実させるためには、各学校や地域にポルトガル語や中国語、フィリピン語など、専門的な語学力と指導力を身につけた人材を配置することが求められます。

連載 先人の残した言葉 14 ジャン・フランソワ・ミレー

他人を感動させようとするなら、まず自分が感動せねばならない。

これは「種をまく人」「晩鐘」「落ち穂拾い」などの作品で知られるフランス人の画家であるジャン・フランソワ・ミレーが残した言葉です。ジュリア・カートライトが、ミレーが亡くなって20年後の1895年に著した図書『ミレー芸術史』にあります。

ミレーがこの言葉に託したことは、作品を制作する自分自身が感動しなければ、いかに巧みな技法で仕上げたとしても、その作品に心底訴える力が生まれにくいことです。作者は作品に精神や生命力を込めなければ、見る人に感動を与えることはできない。見る人に感動を与える作品にするためには、まずは自分自身の感動体験が重要だといっているのでしょう。

ミレーの作品を鑑賞すると、画面に描かれている農民の姿から、必死に生きて

いる姿や1日の仕事に対する祈りが伝わっていきます。これらは対象へのミレー自身の感動でもあります。

授業ではさまざまな教材や題材が使用されています。教科書に掲載されているものもあれば、教師が自ら収集し開発したものもあります。授業者自身が教材や題材に感動したときには、子どもたちにも同じように味わってほしいという思いに駆られます。そして、その伝え方や味わわせ方を工夫します。

子どもたちが教材に感動し、教材の価値に気づくには、教師自身が教材に登場する事象に新鮮さや驚きを感じ、共感することが大切です。ここでは教師の感性が問われます。ミレーがこの言葉に託した主張は、授業という作品をつくる際にもいえそうです。

INFORMATION

北先生の最新刊です!

教師のリアクションカ

「指導と評価の一体化」とは何か
教師の適切なリアクションを
具体的な事例をもとに解説!

著者/北 俊夫
定価/1,430円(税込)
発行/株式会社文溪堂
A5判 96ページ



「教育の小径」の
すべてのバックナンバーを
文溪堂ホームページから
お読みいただけます。

お知り合いの先生にも
お勧めください。



ぶんけい 教育の小径 検索

編集後記

スーパーやコンビニはもとより、病院や介護現場でも外国人のスタッフを目にしない日はありません。編集者も入院中は、外国人のナースエイドにずいぶんお世話になりました。彼らの子どもたちが適切な日本語指導を受けられ、日本の子どもたちと共生していけることを願ってやみません。(H記)



企画・編集: ぶんけい教育研究所
発行: 株式会社文溪堂
発行日: 2024年12月1日